

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（711））

2. 日 時：平成30年2月27日 10時05分～12時00分

14時45分～18時05分

3. 場 所：原子力規制庁 9階D会議室

4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

川崎安全管理調査官、名倉安全管理調査官、津金管理官補佐、江寄安全審査官、
岸野安全審査官、田尻安全審査官、日南川安全審査官、正岡安全審査官、吉村安全審査官、
千明技術研究調査官、郡安技術参与、竹内技術参与、堀野技術参与、山浦技術参与

（原子力規制部 審査グループ 地震・津波審査部門）

植木安全審査官

（技術基盤グループ 地震・津波研究部門）

石田統括技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 室長代理 他14名

東北電力株式会社：原子力部（原子力業務） 担当 他2名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部土木技術グループ 担当 他2名

中部電力株式会社：原子力部 設備設計グループ 担当 他1名

北陸電力株式会社：土木部 耐震土木技術チーム 担当 他1名

中国電力株式会社：電源事業本部（耐震建築） 副長 他4名

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他1名

5. 要旨

（1）日本原子力発電から、2月22日、23日及び本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請のうち、耐震設計上重要な設備を設置する施設の耐震性についての計算書、津波防護に関する施設の設計方針、津波又は溢水への配慮が必要な施設の強度に関する説明書について、説明があった。

（2）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

<使用済燃料乾式貯蔵建屋の地震応答計算書>

○ 解析用地盤物性値について、地盤のひずみ依存性を考慮した等価物性値の算定方法及びプロセスを示すとともに、初期物性値、地震後の等価物性値、基本ケースとばらつきケースの物性値等を整理して提示すること。

○ 基礎盤の面外柔性による鉛直方向の応答への影響について整理して提示すること。

<使用済燃料乾式貯蔵建屋の耐震性についての計算書>

○ 液状化の影響評価方針を踏まえて液状化による当該施設への影響について検討すること。
また、設計に用いる地下水位及び浮力の設定方針について、他の条文及び他の施設の設計方針との整合性を整理して提示すること。

- 群杭効果の考慮の方法について説明すること。

<止水機構に関する補足説明>

- 止水板接続ゴムについて、実証試験による健全性確認の要否を検討し、その結果について整理して提示すること。
- 実証試験の計画については、止水機構の実態を模擬できていることが分かるよう整理して提示すること。
- 鋼製防護壁と取水路の地震時応答（相対変位、絶対加速度）を定量的に示した上で、実証試験用の入力地震動の妥当性について具体的に提示すること。
- 試験装置及び条件の妥当性を確認する上で、事前に解析的検証についてその必要性の有無を含めて検討すること。
- 実証試験における止水板の変位の計測方法について整理して提示すること。
- 水密ゴム漏水試験の条件及び評価について、考え方を整理して提示すること。

<防護カバーの強度計算書等>

- 既設の堰について、堰を嵩上げすることにより現状のアンカー筋の定着長で必要な強度が確保できるのか整理して提示すること。
- 防護カバーの応力強さの評価の必要性と内容を整理して提示すること。
- パッドと防護カバー本体の溶接部の評価を必要ないとする考え方について整理して提示すること。

(3) 日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 使用済燃料乾式貯蔵建屋の東北地方太平洋沖地震観測記録とシミュレーション解析結果
- ・ 東海第二発電所 使用済燃料乾式貯蔵建屋の評価方針について
- ・ 水密扉の耐震性についての計算書 浸水防止堰の耐震性についての計算書 浸水防止堰の強度計算書 コメント回答資料